

農林水産政策審議会 第5回総会 議事要旨

I 開催日時 令和5年10月5日（木）13:00～15:00

II 場 所 兵庫県民会館11階パルテホール

III 出席者

1 委員

石原 淳平 (株)グリーン興産 代表取締役
大山 憲二 神戸大学大学院農学研究科 教授
小田 滋晃 京都大学 名誉教授
片山 守 育波浦漁業協同組合 代表理事組合長
勝沼 直子 (株)神戸新聞社 論説委員長
伍々 博一 兵庫県森林組合連合会 元理事
清水 夏樹 丹波篠山市農都創造部 農都環境政策官
田沼 政男 兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長
辻村 英之 京都大学大学院農学研究科 教授
中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 教授
中村 貴子 京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
中山 晋吾 兵庫県農業経営士会 会長
長谷川尚史 京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授
原田 俊一 ひょうご卸売市場協働ネットワーク協議会 副会長
福永 庸明 イオンアグリ創造(株) 代表取締役社長
福本 博之 兵庫県農業協同組合中央会 代表理事会長
藤原 建紀 京都大学 名誉教授
淵上由美子 兵庫県女性農漁業士会 会長
船越 照平 (一社)兵庫県食品産業協会 会長
坊垣 昌明 兵庫県土地改良事業団体連合会 副会長理事
松波 知宏 (株)ワールド・ワン 取締役
皆川 芳嗣 (株)農林中金総合研究所 理事長
安福武之助 (株)神戸酒心館 代表取締役社長

2 県

萬谷農林水産部部長、呉田農林水産部次長、塩谷農林水産部次長
ほか県農林水産部、環境部職員

IV 議事次第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 農林水産企画部会での審議について

「資料1」により説明

(2) 農林水産業を取り巻く情勢の変化を踏まえた展開方向及び答申案について

「資料2」、「資料3」、「資料4」、「資料5」及び「資料6」により説明

〔 各委員から意見聴取（別紙「主な意見」参照） 〕

(3) その他

4 閉会

主な意見

- 委員 バイオマス発電所が増えており、原木調達の競争が激しくなっている。国産未利用材の利用を増やしていきたい。皆伐が進んでいないが、進めて再造林をしていかないと、20、30年後の林業が産業として成り立たなくなる。スピード感が大事だと考える。早生樹について試験を行っていることはわかるが、試験樹種を増やす等の必要があると考える。
- 委員 答申に対する意見は特にない。県には、環境保全型農業・有機農業を引き続きリードしてほしい。女性活躍の記載が入ってよかったと思う。環境保全型農業や有機農業は消費者と共感することが大事で、女性のコミュニケーション能力が発揮されると思う。農業経営は買って食べてもらわないと成り立たないので、販売促進にも深く取り組んでほしい。今後も近畿全体の環境保全型農業のリーダーシップを取ってほしい。
- 委員 答申に対する意見は特になく、期待している。今後は人材の確保が重要となる。一時的なイベントだけではなく、教育委員会を巻き込んで、子供たちの就職の選択肢に1次産業が入るようにしていく必要がある。コンビニの木造化は木を身近に感じてもらえるので、今後展開して行ってほしい。
- 委員 答申はいいものができた。資料6のP9～P12に記載された○の数を見ると、国の食料安全保障や価格形成が重要との方針と合致していると思う。今後のこととして、スマート農業関係のデータを解析し、農家を指導できる人材が必要になってくる。普及員への研修や、工業的な知識を持った人の採用も必要ではないか。神戸ビーフは輸出やインバウンド需要等、外国人のためのものになってしまっているが、長期的には国内向けの食べ物として位置付けてほしい。長野県や鳥取県で脂の質を基にしたブランド化や、茨城県で脂肪のきめ細やかさをブランド化しているので、但馬牛・神戸牛の打ち出し方を検討してほしい。
- 委員 答申についてはこれで良い。豊かな海づくりをテーマに県民会議を設立することができたので、今後も兵庫県が全国をリードしてほしい。1次産業の後継者不足や処理水放出による中国の輸入停止等、漁業者だけでどうしようもない点は行政で解決してほしい。漁業者も頑張っていきたい。
- 委員 前回総会で女性参画について追記が必要と意見し、記述が入ったのは良いが表現に疑問がある。資料4のP3展開方向(2)①の「生活者・消費者の視点を持った女性」は役割の固定化につながるため、「農業従事者の約4割を占め重要な担い手である女性」等が良い。「家族経営協定の締結による役割分担の明確化によって、女性の経営参画を推進」は女性の役割の固定化の誤解を招くので、「家族経営協定の締結などによって、女性の経営参画を推進」が良いのではないかと。②の「女性が働きやすい環境整備」は、家事育児は女性の役割でさらに仕事もと捉えられてしまうので、「男女ともに働きやすい」等が良い。資料6のP15,16も同様。多様性の担保が大きなテーマだったと思うが、農政全般への女性の参画が必要ではないか。意思決定のプロセスに女性や若者の参画が必要。農業委員や農協の役員への女性の積極的な登用について記載してほしい。

- 委員 女性の役割の固定化を招かないようにというご意見と理解した。表現は事務局と相談する。
- 委員 展開方向に記載されていることを具体化して欲しい。中山間地域は危機的な状況だが、記載が弱いかもしれない。次期ビジョンに向けて情報提供すると、祖父の代から続けてきたわさび栽培をあきらめようと思っている。わさびは25℃が適温だが、最近は気温が30℃以上になることが多い。ハチ・チョウ・ツバメ・すずめが減っているように感じる。但馬水産事務所の発表では、漁獲量が過去10年平均と比べて4割減、ハタハタは2%になっている。持続的な農林水産業に影響が出ていると思う。
- 委員 意思決定プロセスへの女性の参画に関連し、令和3年度からの新しい土地改良長期計画では、土地改良区は役員の10%を女性にする目標にしている。資料6のP21(1)「世界遺産」→「世界農業遺産」に修正を。和歌山県では4サイトが農業遺産に認定されており、兵庫県は3サイトだが、五国なので5サイトという夢を持っている。淡路の資源循環が海の豊かさを担保しており、農林水産業が一体となってほしい。兵庫県のPRポイントとして農業遺産を追加してほしい。キャッチフレーズの「リアルにする」は何をリアルにするのかがわかりにくいと思う。
- 委員 答申はこれで良い。水温が1.5℃上がっており、高温に耐えられるようなタネが必要である。水産は他と比べてブランド力が少し弱いと思う。兵庫県が物産展を開催したらどれだけの人が集まるのか、このあたりを考えていくべきだと思う。
- 委員 米の収穫期だが、今年は品質が悪くほぼ2等米である。35℃を上回るような日が続き、もみ殻が厚くなったことが原因。高温耐性品種を作るにしても時間がかかる。これまで従業員は地元で採用していたが、人材確保のためベトナムに採用面接をしに行った。
- 委員 答申はこれで良い。卸売市場は2024年問題により、県内産ですら量がまとまらないと中央市場まで届かなくなる。遠方からは県内1か所でしか荷下ろししてくれなくなるなど影響が大きい。
- 委員 答申はよくまとまっている。女性の役割の固定化につながる書きぶりは修正してほしい。弊社農場でもJAS有機やCO2ゼロへの取組を、兵庫プライドを持ってやっていきたい。
- 委員 海づくり大会後の展開がわかりやすくてよい。今後、気候変動への適応策に関する記載が必要になってくると思う。水温が上昇し、カキ養殖が中層でしかできなくなっており、飼育水深のメートル単位での管理が必要になっている。
- 委員 農業は国の基盤だが、後継者と担い手不足が問題である。スマート農業には憧れるが、費用が掛かる。ドローンの免許取得への補助等があればと思う。県内の畜産(牛)が衰退している現状の中、将来はWCSの作付が増えすぎて飼料を食す牛が足りない状況になってくると思われる。
- 委員 現実的な答申案ができたと思う。これが絵に描いた餅とならないようにしてもらいたい。
- 委員 これまでに出した意見が反映されている。資料6のP33のため池の防災対策の記載を追加し、例えば、「事前放流施設整備等によるため池の治水活用を推進する

ため、ため池防災工事推進計画に基づき着実に実施する」などとしてほしい。県職員等の確保も重要である。

委員 キャッチフレーズについて、情勢が次々に変化する中で、県がリードして関係者と展開していく姿勢が伝わってきて良い。原発処理水の問題で、水産業に注目が集まっているので、消費者に近い立場として、豊かな海づくり県民会議とも連携しながら、1次産業の現状を消費者に知ってもらう機会にしたいと思う。

委員 キャッチフレーズにある「リアルにする」について、確かにキャッチフレーズだけを見るとわからないが、「はじめに」や「おわりに」において、何をリアルにするのか説明すれば良いのではないかと。資料6のP19に括弧書きの記載がおかしい点がある。P20の環境創造型農業推進検討会については、知事も出席し活発に意見が出ている。

委員 答申案は色々な立場の方に新しい目で見てもらったほうが良い。答申の実現に関連し、森林脱炭素チャレンジの委員長をしているが、そこにJクレジット部門がある。兵庫県の取組が大賞を取れるようにチャレンジしてほしい。農福連携関係では、農福アワードにも積極的に応募してほしい。各分野で全国に発信し、兵庫プライドを見せてほしい。

委員 村米制度で神戸市北区の山田錦の原料を使用した酒造りをしているが、温暖化対策が重要だと感じる。近年の台風や豪雨によりバリューチェーンが途切れてしまうリスクがある。防災減災対策の記載はあるが、BCPを平時から準備しておくことも必要である。水稻の中干延長がJクレジットとして認められたので、品質との兼ね合いも含めて検討してほしい。ひょうご産業SDGs制度と答申に出てくるSDGs登録制度が関連しているのかどうか教えてほしい。

委員 今期の審議会でもやり残したことが3つあるので今後のビジョンの参考に願いたい。①内容が農林水産業に偏ってしまうため、農山漁村地域や食・消費者について記載を広げていく必要がある。②内容が総花的になってしまうが、強弱をつけることも必要と考える。大事な内容が多いので広く情報を集める必要があるが、何を記載しないか選択することも重要。③審議会の多様性も必要と考える。どうしても年齢が高く、男性中心になるが、女性や若者の比率を高めたい。また、意見の発表のみでなく、対話も行っていきたい。

委員 キャッチフレーズについて、兵庫県は太平洋側から日本海まで広く、多種多様なので項目が多岐にわたるが、多様性と連携が重要であることを表現している。今後は答申内容の実行が大事なので、予算の確保をお願いしたい。

委員 答申内容に係るご意見について整理する。女性の役割を固定する表現をしない、意思決定への女性の参画、土地改良区への女性・若者の参画→答申に反映する。原木の争奪、販促の重要性、人材確保、スマート農業指導者の育成、神戸ビーフを国内向けに、→重要なお指摘。キャッチフレーズの「リアルにする」は五国の農林水産を実現するという意味。2024年問題も答申を実現していく上で重要。ため池治水活用推進のための計画→答申に反映する。Jクレジット、農福連携への積極的な応募→ぜひ頑張ってもらいたい。答申の文言修正については、会長と事務局で相談して決めさせていただきたい。